

プロフィール

●稲田芳弘

新潟県長岡市出身。ジャーナリスト(~2011年)。大学在学中からライター活動を始め、環境、農業、食をテーマにヨーロッパ、アフリカなど世界各地を歩く。その後札幌に移り住んで会社を設立し、深い広範な知識・洞察を基としたクリエイティビティが高く評価された各種企画、編集、制作などを手がける。主な著書・共著に『ガン呪縛を解く』『ソマチッドと714Xの真実』『癌では死なない』『VDI革命』『Y2K最新最終事情』『Y2Kサバイバルシフト』『オンリーワン』などがある。

「千島学説」復権の火付け役とも言える『ガン呪縛を解く』をネット上で連載して、話題を呼び、その後、出版された2006年にガン患者をサポートするガン情報センター「じあいネット」を設立。自らガンとともに共生しながら、多数の講演や執筆活動を行なうかたわら、人気ラジオ番組『ガン呪縛を解く時間』(ラジオカロスサッポロ及びじあいネットHPでライブ放送)で自らパーソナリティを努め、海外在住の日本人からも多くの反響をもらう。現在も、この番組は妻でジャーナリストの稲田陽子が主催する「稲田芳弘の『呪縛を解く時間』～ガン呪縛を解くそして不安呪縛を解く」に引き継がれている。これを機に、稲田芳弘が「ガン呪縛」のみならず、より広く「時代の呪縛を解く」というジャーナリストとしてのテーマを探求していたことにより、番組の名称もさらにふさわしいものに変更された。

『ガン呪縛を解く』は、ロングセラーで、その暖かみのある著者の個性で多くのガンを患う方々に慕われ、またホリスティックな医療を求める医療関係者の方々などの共感を得ている。

一方、著者はガンの三大療法を選ばず、千島学説的生き方を貫いていたが、超多忙な生活からガンとの共生と治癒から遠ざかり、2011年1月11日、不本意ながら多くの人々の虚を突くように、しかし惜しまれて天界に回帰した。その生き様は、稲田陽子著『荒野のジャーナリスト・稲田芳弘～愛と共有の「ガン呪縛を解く」』に現代医療の多くの課題とともにしっかりと刻印され、メッセージされている。

<http://www.creative.co.jp>

●平原誠之

100年に一度の奇蹟の天才ピアニスト・作曲家」としてブラービ音楽事務所代表 今治禮子氏に見出される。作曲は1時間の作品であろうと瞬時に完璧な状態で完成し、全て一瞬の作業。考えて悩み作曲する事は全くないという特異な才能を持つ。独自の演奏と作曲法に対し音楽評論家 家永勝氏から「平原音楽」と命名される。

2003年シーサイドホテル舞子ビラ神戸「あじさいホール」(神戸)、中野市民会館(長野)、うはらホール(神戸)でソロリサイタルを開催し、同年10月に紀尾井ホール(東京)で本格的にデビューリサイタルを開催。以後、全国各地で毎年約50回の演奏会を行う。またNHKなどでドキュメント放映され視聴者より「涙が止ま

らなかった」と問合せが殺到。演奏スタイルは、目を瞑り「魂」で一音一音を奏でるスタイルを持ち、悲しみや寂しさを真に生きる喜びと力に代える事の出来るピアニストとして、現在最も注目を集めている。

2010年、「ショパン生誕200周年記念」に際し「平原のショパン」が世界で非常に高い評価を受けた。イギリス・エディンバラの地へ、日本を代表して招聘を受ける。三者（在エディンバラ日本国総領事館・ポーランド総領事館・エディンバラ大学）の共催イベントとして開催。2010年在外交館長表彰状受賞。

2011年、6月第2回英国招聘コンサートで前年同様に、オールスタンディングオーベーションが沸き起こった。さらに、2012年3月、アメリカ・カリフォルニア州アーバイン市ヤマハマスタークラス（作曲）特別教授として招聘され、ヤマハホールで特別公開レッスン（コンサート形式）を行なう。専門家・関係者各位から指導法総合評価として異例の「満点評価」を得る。ソロコンサートでは、全公演スタンディングオーベーションとなった。4月には、伊勢神宮・奉納舞台で式年遷宮記念「せんぐう館」奉祝記念行事でピアノ演奏を行ない、大きな反響を呼ぶ。伊勢神宮鷹司大宮司より表彰状を授与される。本年10月2日に再度伊勢神宮の招聘でピアノ演奏を披露する。